



平成30年2月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年4月6日

上場会社名 和田興産株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8931 URL <http://www.wadakohsan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高島 武郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総合企画部長 (氏名) 溝本 俊哉 (TEL) 078-361-1510
 定時株主総会開催予定日 平成30年5月25日 配当支払開始予定日 平成30年5月28日
 有価証券報告書提出予定日 平成30年5月28日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期の業績 (平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(1) 経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期	35,149	12.0	3,304	7.9	2,424	10.5	1,589	15.9
29年2月期	31,374	8.4	3,063	4.3	2,193	6.7	1,370	10.7

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
30年2月期	158.23	—	8.0	3.0	9.4
29年2月期	137.10	—	7.6	3.0	9.8

(参考) 持分法投資損益 30年2月期 ー百万円 29年2月期 ー百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年2月期	87,603	21,063	24.0	1,897.67
29年2月期	76,218	18,725	24.6	1,872.61

(参考) 自己資本 30年2月期 21,063百万円 29年2月期 18,725百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
30年2月期	△2,726	△2,389	7,408	10,920
29年2月期	1,876	△297	1,615	8,629

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
29年2月期	—	0.00	—	27.00	27.00	269	19.7	1.5
30年2月期	—	0.00	—	30.00	30.00	332	19.0	1.6
31年2月期(予想)	—	0.00	—	32.00	32.00		20.9	

(注) 31年2月期(予想) 期末配当金の内訳 普通配当 30円00銭 記念配当 2円00銭

3. 平成31年2月期の業績予想 (平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	22,000	7.1	2,200	△7.5	1,850	△6.8	1,250	2.5	112.61
通期	39,000	11.0	3,350	1.4	2,500	3.1	1,700	7.0	153.15

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(2) 発行済株式数（普通株式）

- | |
|---------------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） |
| ② 期末自己株式数 |
| ③ 期中平均株式数 |

30年2月期	11,100,000 株	29年2月期	10,000,000 株
30年2月期	202 株	29年2月期	202 株
30年2月期	10,045,003 株	29年2月期	9,999,798 株

※ 決算短信は監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、3ページ（今後の見通し）をご覧ください。